

芦田川水害タイムライン 令和3年防災対応振り返りワーキング ニュースレター

令和3年12月15日（水）福山河川国道事務所及びWEB会議（9：30～11：00）



福山河川国道事務所
令和3年12月15日

～次第一～

1. 開会挨拶
2. 芦田川水害タイムラインの検討経緯・本ワーキングの目的
3. 令和3年度出水期の概要
4. 現行運用上の課題及び令和4年度の水害タイムライン運用に向けた改善案について（概要説明）
5. 振り返り（意見交換）
6. 関係機関等への伝達事項
7. 今後の予定
8. 閉会

◆ 振り返りワーキングの内容

2. 芦田川水害タイムラインの概要について

- ✓ 芦田川水害タイムラインの特徴
- ✓ 芦田川水害タイムラインのこれまでの検討経緯
- ✓ 本ワーキングの目的

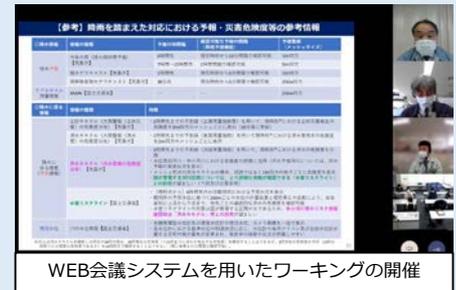
3. 令和3年度出水の概要

- ✓ 台風の状況
- ✓ 今年度の水害タイムラインの運用状況
- ✓ 中国地方に影響を及ぼした主な豪雨

6. 関係機関等への伝達事項

- ✓ 災害対策本部の物的環境について
(H27関東・東北豪雨時の常総市の事例解説：災対本部設置時の留意事項)
- ✓ タイムラインの取組について
(タイムラインの活用・取組推進のための考え方)

※項目4・5は次頁に記載



WEB会議システムを用いたワーキングの開催

令和元年のタイムライン作成から毎年
にわたり見直し・説明会を実施

令和3年は計9回にわたり
タイムラインを運用

災害対策本部の配置に係る留意事項を解説

● 参加機関

広島県 道路河川管理課
広島県 危機管理課
福山市 危機管理防災課
福山市 上下水道総務課
福山市 上下水道計画課
府中市 危機管理室
広島県警察本部 警備部危機管理課
福山東警察署 警備課
福山西警察署 警備課
福山北警察署 警備課
府中警察署 警備課
広島地方気象台
中国電力ネットワーク(株) ネットワークサービス課
中国電力ネットワーク(株) 変電課
福山ガス株式会社 供給部供給管理グループ
株式会社中国バス
(株)エフエムふくやま
八田原ダム管理所
福山河川国道事務所

(2) 芦田川水害タイムラインの作成から今年度までの検討・運用

■ 芦田川水害タイムラインの検討経緯

R1.5.16 第1回検討会

- ・芦田川水害タイムライン作成の目的とメリット
- ・芦田川水害タイムラインのイメージ
- ・運用に際する各機関との連携ポイント、等

R1.6.28 第2回検討会

- ・運用経路等タイムラインと連携のイメージ
- ・タイムラインに併行するレベル制の考え方について
- ・タイムラインの立ち上げ・レベル移行、移行後の内容確認・意見交換、等

R1.8.28 第3回検討会

- ・芦田川水害タイムライン（令和2年度版）を作成・公表

R2.2.25 第4回検討会

- ・令和2年度版水害タイムラインの運用状況・振り返り
- ・ポータルサイトの紹介、等

R3.3.10 令和3年度水害振り返りワーキング

- ・令和3年度出水を踏まえたタイムラインの運用状況・振り返り
- ・「早期の検知と対応」、「他機関や関係内における連携共有」、「出水対応時」における検知経緯、についての意見交換、等

R3.11.15 令和3年度北水害振り返りワーキング（開催）

- ・令和3年度出水を踏まえたタイムラインの運用状況・振り返り

■ 主な災害・出来事

H27.9 関東・東北豪雨

H28.7 中国地方豪雨

R2.2.25 令和2年度水害振り返りワーキング

R3.3.10 令和3年度水害振り返りワーキング

R3.11.15 令和3年度北水害振り返りワーキング

今年度の水害タイムラインの運用状況

インレベルの移行基準（トリガー）に従って、前線や台風に関する危機感の共有のために、タイムラインを発動。今年度出水期（令和3年10月時点）では、計9回のタイムラインの運用（台風の来襲による発動による出力、台風に伴う出水：2回）に併せて大雨では、タイムラインレベル3（避難準備や伝達の経過）を発動した一方で、概タイムラインはレベル0～レベル1（1日前準備）での運用が主であった。

インレベルのトリガーと警報レベル	発動	年月	タイムライン運用状況
1	発動前線	R3.5.17～5.21	レベル0～1
2	発動前線	R3.5.25～5.27	レベル0～1
3	発動前線	R3.6.2～6.4	レベル0～1
4	発動前線	R3.7.2～7.12	レベル0～1
5	発動前線	R3.7.30～8.2	レベル0のみ
6	台風2号	R3.8.7～8.9	レベル0のみ
7	前線	R3.8.10～8.24	レベル0～1
8	前線	R3.9.2～9.6	レベル1のみ
9	台風24号	R3.9.15～9.18	レベル0～1

今年度のタイムラインの運用状況

関係機関等への伝達事項（災害対策本部の物的環境について）

【参考】災害対策本部の物的環境に関する留意事項を解説し、関係機関等に伝達することとして災害に備えるために、「にわたり見直し」を実施し、関係機関等に伝達することとした。また、関係機関等に伝達することとした。また、関係機関等に伝達することとした。

災害対策本部設置時の留意事項

芦田川水害タイムラインのこれまでの検討経緯

4. 令和4年度運用に向けた改善案について

- ✓ 3年間の水害タイムラインの運用実績を踏まえ、令和4年の運用に向けた改善案を事務局から説明
- ✓ 事前アンケート、意見交換（5.にて実施）において、想定される支障等が確認されなかったことから、**次年度以降、改善案による水害タイムラインの運用を予定**

<改善案の概要（下図参照）>

- 予想される降雨の要因（「**台風接近時**」又は「**前線降雨が予想される場合**」の2区分）に応じ、タイムライン発動のタイミング（**立ち上げを周知するタイミング**）を変更
- 前線性の降雨が予想される場合は、気象庁の「**早期注意情報（高）**」が発表されたタイミングで、タイムラインの「**レベル1**」を発動し、関係機関に対し周知

※降雨の状況によっては、従前どおりレベル0から発動する場合もあることに留意
 ※改善案は、各レベルへの移行基準を変更するものではなく、流域全体としてタイムラインを運用する際の、事務局からの周知のタイミングを変更するものである

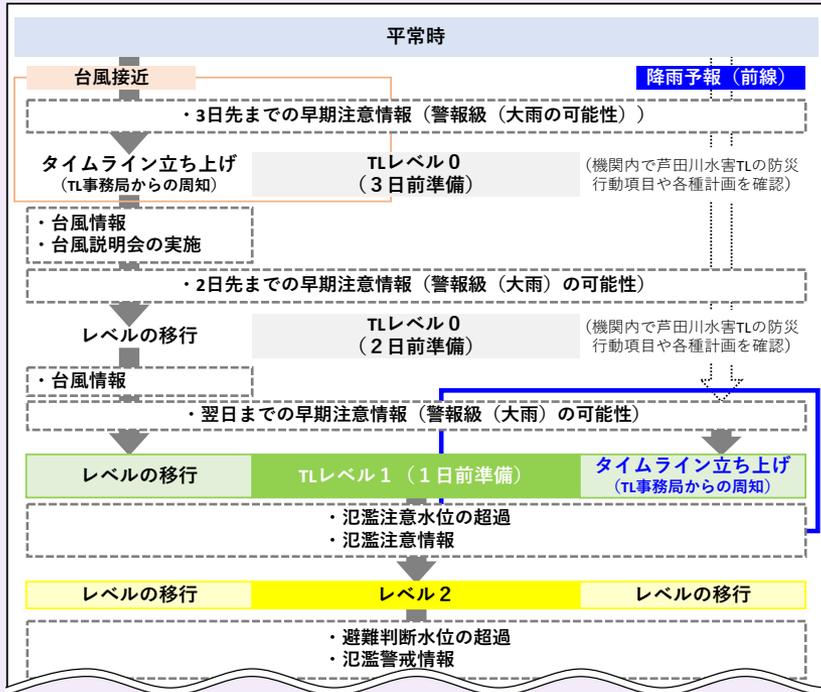


図 令和4年のタイムライン運用に向けた改善案（抜粋）

5. 振り返り（意見交換）

- ✓ 事前アンケートに関する各機関からの回答結果を共有し、水害タイムラインの活用状況や各機関の防災対応に関する意見交換（情報提供）を実施

概要	他機関への提供情報
○防災気象情報（警戒レベル相当情報）とガス事業者の防災対応について	【福山ガス㈱】 ・災害時の迅速な対応・復旧、ガス工作物の被害・二次被害防止のため、事業者間で応援受入を実施 ・台風など、豪雨の際は、以下の状況に応じて災害対策本部を設置し、経済産業省・日本ガス協会に状況を報告 - 警戒レベル4相当（土砂災害計画情報等）発表後、4時間以上継続している場合 - 市町等による避難情報発令時 ・情報収集時は行政のホームページやエリアメールのほか、芦田川防災ポータルサイト等を活用
○災害対策基本法改正に伴う避難情報の変更に関して苦慮した点について	【府中市危機管理課】 ・令和元年から運用されている「警戒レベル」がようやく浸透してきた中での変更であったため、混乱が生じないよう苦慮 ・周知のため、市の広報誌への掲載や周知用のチラシを作成し、全戸配布を実施 ・今後もマイ・タイムライン講習会等の場を活用し、引き続き周知に努める
○タイムライン事務局からのメール・ポータルサイト等の活用について	【中国電力ネットワーク㈱】 ・停電時の復旧対応を検討する際、河川や道路状況の把握に活用 ・供給区間である離島の場合は、事前に人員や資機材を配備しておく必要があるため、配備の参考情報としても活用 【エフエムふくやま】 ・聴取者からの提供情報に対する迅速な確認・精査に活用 ・正確・迅速な関係機関への確認（裏付け）が可能となった
○線状降水帯に関する情報提供について	【広島地方気象台】 ・本年（令和3年）6月より、「現在の降雨」を伝えるためのキーワードとして、「線状降水帯」に関する情報提供を実施 ・次年度（令和4年）以降の取組として、予測情報の提供を予定 ・提供開始時は地方単位の予測（例：中国地方の予測）となることが想定され、順次精度の向上を予定（例：広島県南部の予測等）
○WEB会議システムを活用した情報共有について	【広島県危機管理課】 ・本年7月・8月の対応時に、気象台・県内各市町との情報共有のため、WEB会議システムを活用 ・気象台・全市町と24時間体制で接続し、常時連絡可能な体制を構築 ・接続は、警戒レベル3相当情報が発表されたタイミングで実施 ・土砂災害の危険度・河川水位・今後の気象予測等を共有したほか、避難情報の発令に関する助言等を実施 【福山市】 ・WEB会議システムを活用した情報共有の有用性を確認の上、水害タイムラインの関係機関間においても活用可能な手法として提議（ダム の放流や予測水位の情報共有にて活用等）

7. 今後の予定

- 本ワーキングにて提示した「改善案」による次年度の水害タイムラインの運用
- WEB会議を活用した情報共有実施に向けた調整・協議
- 出水期前（5月ごろ）の水害タイムライン説明会の実施

8. 閉会